

2019年04月30日（火）【外為Lab】松田哲

タイトル：【「平成最後」のコラム】

ニュースで、「平成最後の・・・」という言葉が飛び交っています。

まさに、年号「平成」は、今日で終わり、明日からは年号「令和」がスタートします。

現在は、新たな年号に代わることを祝して、ゴールデンウィークに入っています。

今年のゴールデンウィークは、カレンダー上では10連休です。

しかし、マーケットの営業日で考えると、10連休の初日は、4月27日（土）ですから、4月29日（月）の1日が終わっただけです。

まだ、今日（4月30日）を含めると、4連続の営業日が東京市場休場になります。

今のところ、今年のゴールデンウィークの外国為替市場は、おおむね静かな値動きで、突飛なこともなく、また、市場を動かすほどの大きなニュースも出ていません。

できれば、今年のゴールデンウィークは、このまま静かな展開が続いて欲しいものだ、と考えています。

しかしながら、東京市場が休場の場合には、時として、市場参加者が極端に少なくなることで、リクイディティ（流動性）が無くなり、値段が飛ぶようなことも起こります。

今年（2019年）の年初（1月3日）を思い起こせば、誰にとっても、記憶に鮮明だ、と考えます。

つまり、今週のこれからの値動きには、そういったリスクがある、ということです。

ゴールデンウィークは、無理をしないで、ポジションを取らない、あるいは、無理のない程度にポジションを軽くする、そういった対応が望ましい、と考えています。

それこそ、「平成」が終わり、「令和」になっても、マーケット（相場）は、全く同じように、存在します。

「令和」になってからのゴールデンウィーク明けに、新たな気持ちで、マーケット（相場）に臨めば良い、と考えています。

+++++

（2019年04月30日東京時間15：00記述）